

## 在外研究報告

### 米国フロリダ大学での交流研究員としての1年間

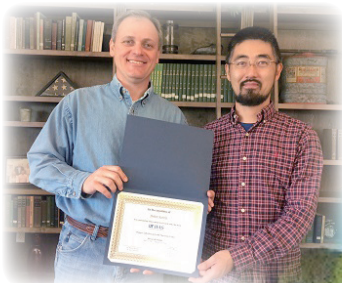
畜産草地研究領域 金子 真

2017年4月1日から2018年3月31日までの1年間、アメリカ合衆国フロリダ州ハーディー郡オナにある、フロリダ大学 食品・農業科学研究所 牧野・牛研究教育センターで在外研究を実施しました。

フロリダ州は米本土最南端にあり、牧野・牛研究教育センターは沖縄本島と同緯度に位置し、亜熱帯の温暖な気候に適応した牧草を利用した放牧が盛んです。生産者はほとんど肥料等を利用しないため、フロリダ大学ではマメ科牧草を導入し、マメ科牧草の根に付く根粒菌による空気中窒素の牧草への供給が重要な研究テーマとなっています。在外研究出発前は、九州で初めて利用する種類の牧草導入に試行錯誤を繰り返していましたが、在外研究では、フロリダ大学で長年の研究により培われた知見と技術を基に、イネ科牧草とマメ科牧草の新しい組み合わせの混ぜ播き試験に成功しました。夏季には連日30℃以上の中で刈取り調査が続きましたが、私の所属したグループでは外作業はまだ涼しい朝に終わるよう

に計画を立てており、体への負担を少なくすることができるとともに、効率的な試験遂行についても学べました。

海外で長期間活動できる在外研究では、現地での普及活動や学会などからも情報収集を行えるメリットがあります。今回の在外研究ではこの点を活かし、研修会や国際学会にも参加しました。フロリダ大学が主催する生産者向けの研修会は、ランチを含む研修会やディナーセミナーが多く、食事も提供することで生産者の方が気軽に参加できるよう工夫されており、そこではアメリカらしい大きなハンバーガーやステーキがふるまわれていました。フロリダ州の生産者は主に母牛を飼い、他州に子牛を売る繁殖経営ですが、地産地消を目指して放牧で肥らせ、牛肉を生産するグループも一部出てきていました。これら先進的な事例の情報も得られ、実り多い在外研究となりました。



受入れ教官のベンドラミニ准教授より  
交流研究員認定証を頂きました。



研究室メンバーと播種作業後、  
スプリンクラーで灌漑中の筆者試験圃場前にて。  
左から筆者（交流研究員）、ジョー（博士課程）、  
ハイザ（交流研究員）、ジョニー（交流研究員）、  
ヒーラン（ポスドク研究員）。

牛肉生産者研修会で  
ふるまわれたステーキ

